

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	情報生命博士教育院	申請大学名	東京工業大学
申請大学長名	伊賀 健一		
プログラム責任者	関根 光雄		

1. 進捗状況概要

- ・計画を着実に実施しており、所要の体制整備等が確実に行われている。
- ・産業界若手メンター制度の構築、大岡山キャンパス（情報理工学研究科）との連携体制等において一部遅延が認められるものの、全体としては順調にプログラムが実施されている。
- ・多くの国際的な取組が積極的に実施されており、情報生命科学分野においてグローバルに活躍するリーダーの養成が期待される。
- ・学内規程及び、カリキュラムの整備により、情報生命博士教育院のルールが明確化されており、教員レベルでは関係者間の相互理解が進んでいる。
- ・平成23年度と24年度に22名ずつ合計44名が本プログラムに参加し、当初予定人数より少数ではあるが、生命系の学生には魅力あるプログラムとなっている。一方で、情報系の学生数が非常に少なく、準参加学生制度を設けてバランスの是正を図っている。
- ・運営委員会と6つの部会、及びカリキュラム部会の下に、グループ型問題解決演習、異文化コミュニケーション等のワーキンググループを設置し、教員の指導・支援体制が順調に構築・運営されている。
- ・優秀な学生を確保するため、学生説明会やwebページ等の工夫がなされている。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

- ・もともと情報系の学生は博士課程進学率が低いとのことだが、生命健康イノベーションリーダーへのキャリアパスを魅力ある形で示し、準参加学生制度に加えて更なる方策を講ずることで、来年度以降、情報系の学生の増加が期待される。
- ・産業界若手メンター制度は本プログラムの特色でもあり、着実な実施が望まれる。
- ・養成される人材の進路は、従来型のアカデミアと産業界に限定するべきではなく、ベンチャーで社会変革をもたらすようなユニークな人材の発掘も期待される。
- ・Γ型人材教育に向けて、参加教員自らがΓ型研究の意義と醍醐味を学生に示していくことが重要であり、情報系と生命系教員間の共同研究が多く生まれ、発展していく方策を取ることが期待される。